

平家物語・源平の合戦と明石

明石市が道端に設置している文化遺産案内地図(右)の山陽電車「人丸前」駅付近には平家物語・源平の合戦に関する文化遺産があります。高架になっている駅の下には今では暗渠となっている両馬川が流れ、ここで、一の谷の合戦に敗れ逃れてきた平忠度(たいらのただのり)が源氏の兵に打たれといわれています。このことから周辺にはゆかりの文化遺産が所在します。

『あかし文化遺産—明石市内に点在する文化財を調査・解説—』(平成 27 年 3 月 明石市文化・スポーツ部文化振興課発行)に次のような記載があります。

明石市内では、歌人で武者としても勇猛だった薩摩守平忠度(平清盛の弟)の墓(昔は塚といっていた)と腕塚神社があります。『平家物語』では「一の谷の合戦で忠度は源氏の岡部六弥太忠澄と馬を並べて渚を走り抜けていき、取っ組み合いの末に、右手を切落され、最期と覚悟した忠度は南無阿弥陀仏と唱えて首を打たれました。六弥太は打った相手の名前がわかりませんが、籠に結び付けられた短冊の和歌“行き暮れて木の下陰を宿とせば花や今宵の主ならまし 忠度”から平家の大將の一人、薩摩守忠度とわかりました」。忠度の死を悼んだ人たちがその右腕を埋めた所が腕塚といわれています。今ある腕塚神社には木製の右手が奉納されていて、これで痛い所や悪い所を撫でると治るといわれてきました。昔は「右手塚町=うでつかちょう」という地名でしたが、今は天文町になっています。(地名を惜しむ地元では右手塚自治会として名前を残しています)。

ここより国道2号線を越えて南に行くと「忠度の墓(忠度塚)」(天文町、昔は忠度町)があります。この南北のラインに沿って暗渠となっているのが「両馬川」で、忠度の最後の合戦地と伝えられている石碑が建っています。この碑と道を挟んで筋違い少し北側に「平経正馬塚旧址」の石碑が建っています。経正は平清盛の弟、経盛の嫡男で、一の谷で非業の最期を遂げた無冠の太夫・敦盛の兄です。大蔵谷の合戦で討ち死にした経正の愛馬が埋められ供養した跡といわれています。以前は現在の場所の東南の所に塚があったといわれています。

平清盛の供養塔が善楽寺にあります。これはここで清盛が亡くなったというのではなく、清盛の病死後、播磨守として善政を行った清盛を悼んで供養塔を建てたということで、忠度や経正の愛馬の塚とは祀られ方が違うようです。

経正の弟、敦盛の最後の地須磨一の谷の近くに「敦盛塚」があり、大きな五輪塔が建っています。…須磨区の隣、長田区には忠度の「腕塚堂」「胴塚」があり、忠度の腕や胴を埋めて供養したといわれています。



左 平清盛の供養塔(善楽寺 市指定) 中 敦盛塚(須磨区 市指定) 右 清盛塚石造十三重塔(兵庫区 県指定)